



森のなかま

2021年 4月号

NO. 154 (継続299号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 久保 重明
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

第12回森林文化講演会

『林業家として～豊かな森から可能性を追求して～』

日時： 2021年2月7日～15日 限定動画配信
場所： 動画配信
講師： 杉山 精一 氏 (すぎやま せいいち)
自伐林業家 (神奈川県でただ一人) 足柄在住

<かながわ森林インストラクターの会主催>

スタッフ： 森林文化部会委員

協力： 神奈川県森林協会 (支援・後援)、 (公財)かながわトラストみどり財団 (後援)

研修申込： 136名 視聴回数400回以上

(記・写真 菊地 昭子①)

コロナ禍の中での会場開催は難しいと判断し、動画での開催と計画を急遽変更し、動画撮影、編集、チューブにUPとなりました。挨拶の時に聞いた話を元にサブタイトルを決め撮影開始です。朝9時に杉山氏の自宅に到着、工具(1mものチェーンソー)やトラックをご子息の洋一氏にも協力頂き動かしてもらいました。続いて自宅から車で5分位の木漏れ日の入る杉山氏の山に入り、サブタイトルごとに撮影角度を変え開始。

- ① 林業の道へ
- ② 神奈川の林業施業について
- ③ 自然災害について
- ④ 補助金(助成金)について
- ⑤ 林業の将来
- ⑥ 森林にこれから取り組もうとする方々へ

杉山氏から地域の紹介をしたいと提案して頂き

- ⑦ 三竹地区と森林文化

と7つとなり、最後に製材所も見学。熱意と力強く分かりやすい話が進み時間があっという間に過ぎていきます。天気にも恵まれ、風もなく本当に撮影日和のなか終了しました。



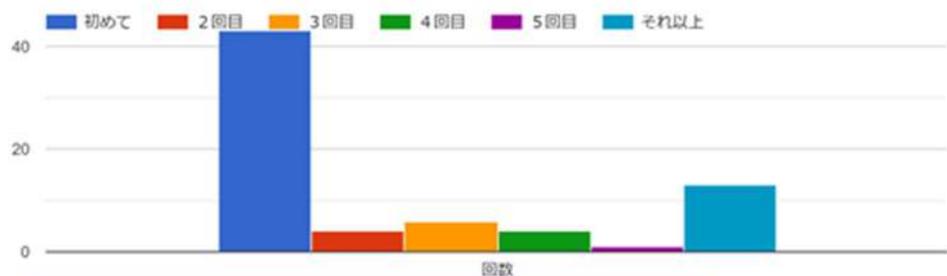
講師の杉山氏

初めての動画講演会で、告知が日程ギリギリになり参加人数を心配しましたが、沢山の方が紹介していただき申込者100人を超えることができました。今回も神奈川県森林協会(支援・後援)、(公財)かながわトラストみどり財団(後援)ご協力ありがとうございました。森林文化部会委員による構成、撮影、編集、校正、紹介などの協力をいただき無事終了しました。

参加者数など

視聴参加申し込みは、136人、視聴回数も400回を超えました。
多く方が紹介してくださり、期間ギリギリまで申し込みがありました。
香川県の方、企業、県の職員の方、かながわ森林インストラクターの会のメンバーはもちろん、さがみはら緑の風、全国森林インストラクターの会、藤沢グリーンスタッフ、鎌倉レンジャー、山崎・谷戸の会、小田原山盛りの会、道志水源林ボランティアの会、一般の方にご視聴いただきました。

参加回数アンケート



特徴：参加回数初めての方が多かったです。

アンケートの感想

- ・神奈川県の実業家の方の生の多岐にとんだ話が聞けてよかったです。現地からの説明で、座学では伝わらないものを味わうことができ、オンラインならではのよさがでていました。
- ・杉山さんの先進的な取り組みは、経済合理性とともに自然環境の保全を目指しており、私みたいな素人でもとても良く理解できました。ご息子ともども、頑張ってください。
- ・語る内容もさることながら、講師の林業に対する熱量（思い）に共感を覚えましたなどなど。今回は、熱く長い感想が多かったです。

ご寄付の報告

昨年につき、今年も小田原市在住の北村毅（きたむらたけし）様より、多額のご寄付を頂戴いたしました。当会の活動の更なる充実の為に使わせて頂きます。

この場を借りて厚く御礼申し上げます。今後も、沢山の方々からご支援を頂けるように活動して参りたいと思います。
（事務局長 山口 久基）

森のめぐみ シリーズ

枠組は桜の小枝です

草木染めは地域に生育する草木を利用して古くから行なわれてきています。黄八丈もその一つです。黄八丈の黄金色を思わせる黄色は八丈島のコブナグサというイネ科の1年草から取り出したものです。田んぼの畔にも生え、ススキに似た雑草にも見えるこの草を八丈島の人たちは大切に育て利用してきたのです。黄色の染色に利用される同じイネ科のカリヤスに形状が似ているので八丈刈安とも呼ばれます。カリヤスは全草の煎汁を黄色の染料として滋賀地方などで使用されていました。カリヤスの黄色の色素はタマネギの黄色の色素と同じルテオリンというフラボノイドによるものですが、コブナグサも同じくフラボノイドによってあざやかな黄色に発色します。

キハダ (*Phellodendron amurense*) も黄色の染料として古くから使われてきました。キハダはミカン科の山地



キハダの実

キハダの皮
(裏皮黄色)

に自生する樹木ですが、厚い外皮の内側の内皮にベルベリンというアルカロイドを含んでいて、鮮やかな黄色をしています。キハダは生薬では黄柏(おうばく)とも呼ばれ、整腸用に使われてきました。また防虫作用があるので衣類のほかにも保存の必要性の高い文書や、経典などの用紙としても使われてきました。東

大寺正倉院の遺物にもキハダで染めた紙があります。藍染めの後にキハダで染め重ねると緑色を発色させるのにもキハダは使われてきました。

奄美大島の大島紬にはシャリンバイが使われます。シャリンバイは4~6月ごろに白ないしは淡紅色の5弁の小さな花をつける庭木にもされるバラ科の常緑低木です。絹糸に樹皮の煮出し汁で色を付け、それを泥土に入れて発色させる泥染めによって作られま

第38回 草木染めには
こんな植物も

東京大学名誉教授 谷田貝 光克 氏

す。シャリンバイのタンニンが泥の中に含まれる鉄分の媒染により大島紬特有の黒褐色の色合いを作りだします。

メキシコなどの中南米に生育するマメ科の樹木ログウッド(*Haematoxylum campechianum*) は黒紋付きなどの黒色を染め出すのに使われます。心材を使用しますが媒染剤の種類によって赤紫色から黒色にまで発色します。その成分はヘマトキシリン(haematoxylin)という水酸基を複数個含んだポリフェールの1種ですが、酸化クロムを媒染材として黒色を発色させます。衣類に限らず包丁の柄などの染色などにも用いられ、化学染料ではまねのできない重厚な黒色を作りだします。ログウッドが導入される前の江戸時代には檳榔(ピンロウ *Areca catechu*) というヤシ科の植物の実、檳榔子(ピンロウジ)が武士の黒紋付きの染色に使われていました。檳榔子は東南アジアで噛みタバコのような使われ方をされているものです。檳榔子の日本への渡来は古く奈良時代には薬用として用いられていました。アレコリンというアルカロイドやタンニンを含み、駆虫薬として利用されてきました。日本薬局方の生薬としても収載されています。

道端や野原に生えているアカネ(*Rubia akane*)は赤色の染料として用いられます。アカネはアカネ科に属するつる性多年草で、そのオレンジ色の根に赤色色素のアリザリンという色素を含んでいます。

昔は赤色の色素としてよく使用されていたが、現在ではアリザリンの合成によってその利用が減少しています。あかねは万葉集では、「日」、「照る」などの枕詞の「あかねさす」として使用されていますが、いかにもほのぼのと明るい色をイメージさせます。アカネの根も茜草(せんそう)の名で薬用として用いられ、止血や解熱に効能があります。

これらのほかにもヨモギ、サクラ、ウコン、柿渋、クチナシ、ヤマモモ、クルミ、ツルバミなど、古くから草木染めの染料として用いられてきた草木がありますが、それらに限らず身近に生えている雑草や垣根の木でも草木染めはできるのです。化学染料では得ることのできない自然色豊かな深みのある色調、そして媒染剤の違いによって微妙に色が違ってくることにも草木染めの魅力があります。

(イラスト) 広報部 加藤 優美 ⑮

活動短信

今回の掲載はR3年2月8日-3月3日分です。
寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

4月(卯月)(旧暦3月弥生)の

二十四節気と七十二候

清明 4/4 頃

清らかで生き生きとした春。雁が北に帰り、ツバメが南からやってくる頃

穀雨 4/20 頃

穀物を育てる雨がしつとりと降り、稲苗が大きくなり、アシの芽も出る頃

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です。
(できれば Word、メール直筆でも OK。Excel はできるだけ避けてください。改行等の処理に手間を要しますので写真もあれば添付ください。)

◆ 活動団体・活動名 等

日 日付(できれば時間と天気も)

場 場所 (例:相模原市緑区 長竹承継分収林)

参 参加者 人数

県 例 神奈川県 環境農政局 緑政部

水源環境保全課 水源の森林推進グループ

財(公財)かながわトラストみどり財団、**看** 看護師

スタッフ 例 小田原市森林組合XX様

例 川崎市公園緑地協会・XX様

イ インストラクター① (○数字:期) **研**:研修枠

以下、本文を概ね400字前後を目安として執筆ください

リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェックをお願いします。(執筆者名もお忘れなく!!)

活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします。

◆ 松田町立寄小学校・5年生 ~Zoom リモート授業~「やどりき水源林」Q&A

日 令和3年2月8日(月)13:50~14:30

場 松田町寄小学校ほか各自宅

参 5名(教師1名 子供4名)

イ L井出①、サポート:松本①、古館③

(1)実施までの経緯

1月29日にやどりき水源林で、丹沢大山自然再生委員会との共催事業である環境教室(寄小学校5年生の観察会)を行う予定でしたが、コロナ禍の緊急事態宣言発令で中止になりました。

後日、寄小学校の担任の先生から、「子供たちがすごく残念がっている、是非森林の話を知りたいので、電話で質問に答えていただけないか」との電話をいただきました。電話だとなかなか話が伝わらないので、Zoom ミーティング形式で行ってはどうかと提案したところ、是非お願いしますとのことで、リモート授業を実施することになりました。

かながわしずくちゃん Facebook は下記URLで見ることができます。



<https://www.facebook.com/kanagawa.sizuku>

(2)準備・Zoom テスト

授業実施にあたり、事前に Zoom テストを行いました。映像、音声、画面共有の確認を行いました。ホスト(学校)側で承認をしてもらわないと、ゲストは画面共有ができないので、一旦テストを終了して(先生も初めての経験でよく分からなかった様子)、承認設定をもらった後に、再度テストを行い、パワーポイントが動作することを確認しました。



その際、黒板に書いた子供たちの質問内容をキャプチャーしました。質問内容は多岐にわたりましたが、今まで集めた資料や写真をベースにパワーポイントで資料を作成しました。

図1. 最初の挨拶(左列中央が教室の子供達)

(3)リモート授業本番

授業は、教室の大型モニターの前に子供達が座り、インストラクターは井出が解説・進行、環境教室に参加を予定していたメンバーの松本、古館がサポートする形で加わり、あと一人のインストラクターが映像・音声なしで視聴し、情報を共有しました。

最初に全員で挨拶をした後に、子供たちの質問に答える形で授業を進めました。

◆質問の一部(全13問)

- ・中津川になるまでいくつの支流があるのか
- ・ろ過された水はどのくらいキレイになるのか
- ・やどりき水源林の仕事で一番大変なこと
- ・中津川の水が綺麗なのは木や土に条件があるのか
- ・水源林と中津川の関係
- ・インストラクターをやろうとしたきっかけは?
→これに関しては3名で答えました。

身近なところに、やどりき水源林と中津川があるので、それらに関する具体的な質問が多かった印象です。事前に用意したパワーポイント資料を、質問に答える形で解説しながら授業を進めました。



図2. パワーポイントの一部(右に参加者画像)

(4)リモート授業を終えて

今回初めてリモート授業を行いました、思いのほかうまくいったのではないかと思います。こちらから一方的に話すのではなく、事前に質問を出してもらい、これに答える形(対話のキャッチボール)が良かったと思います。

授業後、担任の先生から、子供たちが大変喜んでいたと、感謝の電話をいただきました。

リモート授業は、これからもコロナ禍にかかわらず、例えば間伐や登山などの事前の森林講話など、いろいろな場面で有効に使えるのではないかと思います。
(記・写真 井出 恒夫 ①)

「豊岡小の樹木とかかわろう」。4年3組36名は1年をかけて校庭の植物を観察。タブレットで写真撮影をしたり、スケッチ、幹の擦りだしなども加えて子ども一人一人が観察レポートを作成しています。3月3日は観察した結果を班ごとに発表、インストラクター3名は子どもたちが一年かけて突き詰めた質問や自然観察の方法について答え、1年間の体験学習の総まとめを行いました。

質問のなかには世界学会で未だ結論の出ていないもの(例えば「シュロの幹が毛むくじゃらなのはなぜですか?」)も多数あり、5歳児の質問ならぬ10歳児の質問にも大人がきちんと向き合えないと「ぼーっと生きてんじゃねーよ!」と言われそうであることを、インストラクターが実感した半日となりました。



学年として町から森へ出かけることはかなわなかったコロナの一年でしたが、とても身近な自然をじっくりと見、スケッチなどで記録を残すこと、科学的な疑問を持つことを子供たちは体得したように見受けられました。豊岡小は横浜市でも最も創設が早かった伝統校のうちの一つです。4年生は第99回卒業生になるそうです。次の100年に向け、自分たちの足元を確認することから始めて確実にSDGs、またそれ以降の目標の実現に向けて前進してくれるのではないのでしょうか。地球温暖化対策に主人公として向き合わなくてはならない世代です。今日の体験が子どもたちの未来への準備のお手伝いとなれば幸いです。

(記 飛田 尚弥 ⑮ 写真 財 内田様)

人も自然もいきいき丹沢
丹沢の自然再生に取り組む 丹沢大山自然再生委員会のホームページをご覧ください。 <http://www.tanzawasaisei.jp/>

◆ 横浜市立豊岡小学校
「豊岡小の樹木とかかわろう」

- 日 令和3年3月3日 10:00~12:00、晴れ
- 場 横浜市立豊岡小学校(鶴見区)
- 参 4年3組34名 先生1名
- 財 内田様
- イ L 松本⑪、堀江④、飛田⑮

前日の嵐の後のひな祭り、天気は快晴でしたが強風が続く鶴見の町中の午前中。コロナ禍前は金沢区自然観察の森へ出かけるなど大きな自然に触れる機会も多かった豊岡小4年生ですが、今年は学校の敷地内で自然と向き合う学年となりました。タイトルは

緑の募金
シンボルマーク

緑の募金キャラクター
どんぐりくん・どんぐりちゃん

かながわ森林インストラクターの会『緑の募金』の支援団体としても取り組んでいます。
全国で5番目/NPO法人で初めて委嘱されています。

やどりき水源林ミニガイド

森のなかまは過去号もご覧になれます。
(ホームページ) http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01
(HP担当：井出恒夫)

「森の案内人」

3月から森の案内人を再開しています。

「やどりき水源林ニュース」



水源林に春がやってきました!!



http://www.forest-kanagawa.jp/4field.html#field02

3月号が発行されました。春でいっぱいです。災害復旧工事の様子も載っています。

●問合せ:

(公財)かながわトラスみどり財団

TEL: 045-412-2255

FAX: 045-412-2300

●ホームページ: http://www.ktm.or.jp

E-mail: midori@ktm.or.jp

年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会

宛まで2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

黒川 敏史

Mail:

kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

Tel: 080-5477-2206

<電子配信会員向け担当> 笠原

Mail: happy_kumakuma711@cloud.com

<電子配信企業等パートナー様向け担当>

柳澤 Mail: cherril@gk9.so-net.ne.jp

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】黒川 敏史

Fax: 0467-46-8650

電話連絡先: 080-5477-2206

Mail:

kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

【別冊】阿藤 寿孝

Tel: 045-433-4413

Mail: hisa-ato2@22.netyou.jp

原稿は随時受け付けています。

編集後記

★新年度が始まりました。気分一新で・・・!!

コロナ疲れでもう散々な気分ですが、冬芽が大きくなり、蕾も、花も。自然は確実に春を告げています。いつもと変わらずに・・・虫も地面から出てくるようになりました。

人間界ではコロナで大騒ぎですが(大問題ですからね)、地球の生物界から見ればちっぽけな事。時間は何ら変化なく着実に時を刻み、地球は変わらずに太陽の周りを廻っており、季節は変わらずに変化しており、生物のリズムは変わらずに廻っている。現状を嘆くことなく、生物界の春の訪れの息吹を感じてみよう。(吉田)

★3月は花見に忙しく、やれ府中でウメだ、調布でモクレンだと、出かける毎日でした。昨年は新宿御苑が閉鎖になる直前に艶やかなサクラを見る事が出来ました。観桜客はシートに座り込む事もなく、そぞろ歩きで鑑賞していて、安全で(笑)静かな、近年にない良い雰囲気でした。今年はどうなりますか。騒がしい「花より酒」が淘汰されるなら、「コロナ自粛」も悪くない?(竹内)

★3/18 茅ヶ崎の赤羽根中学校に行った時にあった満開の花木の名前がでてこず、家の近くの左馬神社傍にあった事とコウヤとつく??を思いだし家に帰って調べたら『コウヤミズキ』でした。で、神社近くの写真をとりました。廻りにありそうで以外とない花木です。今は廻り中、花々花でいい季節になってきました。コロナ対応ワクチン早くお願いします。(松本)



コウヤミズキ (撮影 松本)

★緑の新芽がふくらみまもなく桜の開花が楽しめる季節、ようやく緊急事態宣言も解除されました。少し悩んで?? 箱根のホテルに予約連絡しましたが、すでに満室世の中そんなもんですね!! (阿藤)

★東日本大震災から10年経ったんですね。私にとって、恐ろしい災害が先日のように思えるのですが、月日が経つのは早いです。

そして今年の今ごろから、新型コロナウイルスの影響を受け新しい生活様式になり、目まぐるしく一年が過ぎてしまいました。

せめて桜はゆっくりと歩きながら愛でようと思います。(笠原)

★先日「ナラ枯れ」研修交流会に出席してきました。原因は、ご承知の通り、カシノナガキクイムシですが、対策については木の多さと手間を考えると、対象を絞らないと難しいですね。5月号に報告記事を書きますので、ご確認ください。(黒川)

編集人: 黒川 敏史

広報部: 吉田郁夫 松本保 笠原かずみ

加藤優美 阿藤寿孝 竹内明彦

柳澤千恵美 小林照夫

武田昭典 中澤良夫

支援: 大原正志 江頭淑子